第2章 界面活性剤測定方法

第1節 測定方法検討手順

2003-10-27

界面張力自動測定システムに数種の自動測定ソフトが組み込まれている。以下の順序で自動 定数設定機能を利用して、適切な測定方法を検討し正確な表面張力を得る。

1. シリンジ定数

「連続測定」により純水の表面張力を測定する。測定結果を「シリンジ定数登録」で保存す る。

2. 測定方法

「進度定数測定」で高速滴下距離と低速滴下距離を測定する。 「吸着平衡時間測定」で吸着平衡時間を測定する。 「濃縮平衡距離測定」で濃縮被膜剥離距離を測定する。 以上の測定結果から適切な測定方法を検討する。

3. 試料測定

「残余除去連続測定」を使用し検討した測定方法で温度平衡時間を検討する。 検討した測定方法と適切な温度平衡時間を採用し、試料の正確な表面張力を測定する。

界面張力自動測定システム KAI	MEN Ver2.00 2003	.10.24 Copyr	ight by YTS						
1: 連続測定 2: 進度定数測定 3: 吸着平衡時間測定 4: 残余除去連続測定 5: 濃縮平衡距離測定 6: シリンジ定数登録 7: 終了	界面張力自動測定 [KAIMENA] [KAIMENF] [KAIMENB] [KAIMENC] [KAIMENE] [KIPRASET]	キャピ [●] フリ半径計測 基本測定定数 吸着平衡時間 表面張力 濃縮皮膜剝離距離 シリンパ定数							
1 : シリンジ定数 : 連続測定(純水) → シリンジ定数登録 2 : 測定方法検討 : 進度定数測定 → 吸着平衡時間測定 → 濃縮平衡距離測定 3 : 試料測定 : 残余除去連続測定 << 測定方法検討順序 >> YTS Tel(088)665-7907 Fax(088)665-7909 E-mail : ytsûmwb.biglobe.ne.jp URL http://www.tcn.ne.jp/~yamashita/									

第1項 進度定数測定 [kaimenF]

未知試料測定基礎定数として、高速滴下距離と低速滴下距離の、2つの移動距離定数を測定 する。

操作

「進度定数自動測定」の測定メニューから「自動測定」を選択する。

進度定数自動測定 KAIM	1ENF Ver2.00	2003/10/22	é S	Copyrig	nt by YTS (
				2003-10-2	23 23:38:36
滴下回数 High	<mark>5</mark>	回数 Low 🛛 4			
隙間補正 [μ]	+500				
	High定数	Low定数	残余High	残余 Low	
速度定数 (0-31)	31	Ø	30	30	
移動距離 [μm]	+2700	+500	FSC = 31	to -60	
High & Low mode	: 微移動距离	∰ 3000			
Low mode : 粗速/	度 Highspee	d, 微速度 L	owspeed		
記録ドライブ	В		計算式:	Lando & Oal	kley
Datafilename	F3102301	YYMMDDnm	[PF8]言	<mark> </mark> 算式選択	
				[PF7]自	動原点復帰
				1. 101	
ZDE1=保存S ZDE5=開始S	(PE6=Data)		唱M> <pe9=< td=""><td>元202 JE> 。</td><td>(PE10=Menu)</td></pe9=<>	元202 JE> 。	(PE10=Menu)

設定

デフォルトの設定のままで変更する必要は無い。

実行

「PF5」を押すと自動測定を開始する。

結果

高速滴下距離と低速滴下距離が求まる。

高速滴下距離 : 吸着平衡時間を取らない場合の概略値

低速滴下距離 : 吸着平衡後の概略値

解説

進度定数自動測定の結果が、未知試料の測定方法、吸着平衡時間、温度平衡時間検討の 基礎定数になる。

第2項 界面張力吸着平衡測定 [kaimeB]

試料分子量を基に概略吸着平衡時間を検討する。求まった概略値から正確な吸着平衡時間を 検討する。

1. 概略吸着平衡時間設定値の自動計算

操作

「界面張力吸着平衡測定」の測定メニューから「測定定数自動測定」を選択する。

設定

「試料分子量」の概略値をグラム単位で設定する。(ex:300)

「試料種別」を設定する。(ex:アニオン性及び不明なら[A]、それ以外は[N])

「高速滴下距離」概略値をµ単位で設定する。 (ex:1850)

「低速滴下距離」概略値をµ単位で設定する。 (ex:1750)

界面張力吸着平衡測定	KAIMENB	Ver5.00	2003/10/	26	Copyr	ight by YTS O
		自動測定	定数設定		2003-10-	-27 22:47:21
				Salistor 155 mil		
[][□[]][] [][[]] [][[]] [][[]] [][] [][300 吸者	平衡時間[min]	試料種別	A,N,K,H	Ĥ
	+1850					
低速滴下距離[μ]	+1750					

実行

「PF3」を押すと自動計算する。

概略吸着平衡時間設定値と概略温度平衡時間が定まる。 「 P F 5 」を押すと自動計算結果を測定定数として設定する。

界面張力吸着平衡測定 KAIMENB Ver5.00 2003/10/26 Copyright by YTS 0
<< 自動測定定数設定 >> 2003-10-27 22:45:21
試料分子量[g/mol] <mark>300</mark> 吸着平衡時間[min] 就料種別 A,N,K,H A
高速滴下距離[µ] +1850 粗移動距離 : 1350 滴下回数 : 11 低速滴下距離[µ] +1750 残余除去距離 : 1800 温度平衡時間 : 10
吸着平衡時間 粗→微 [分] < 測定番号 >
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 0.1 0.1 1 2.5 5 10 15 20 0.1 30 0.1
温度平衡時間[分] 10
吸着平衡時間未設定 → 分子量を基に概略測定定数設定 吸着平衡時間既設定 → 詳細定数測定設定 試料種別 A:アニオン系 N:ノニオン系 K:カヲオン系 H:H2o
<esc=取消> <pf3=自動計算> <pf5=設定></pf5=設定></pf3=自動計算></esc=取消>

2. 概略吸着平衡時間の測定

操作

「界面張力吸着平衡測定」の測定メニューから「自動測定」を選択する。

設定

「測定定数自動測定」で自動計算した結果が反映されている事を確認し、デフォルトの設 定のままで変更する必要は無い。

界面張力吸着平衡測定	KAIMENB U	Jer5.00 2003	3/10/26	Copyr	ight by YTS O
				2003-10	-27 22:49:42
		則定定数設定			
滴下回数 <u>11</u>	シリン	ジ位置 [μm]	+25000		
	設定定数	微設定定数	残余除去距離	E	
速度定数 (0-31)	31	Ø			
移動距離 [μm]	1350	+3000	1800		
測定番号 /〈料	1→微> 吸着	半衡時間[mir	1]		
1 2 3 4	5 6 7	8 9 10	11 12 13 1	14 15 16	17 18
0.1 0.1 1 2.5	5 10 15	20 0.1 30 0	0.1		
	-11-5				
	「行」	0.05			
<u>記球ドライフ</u> B					
Datafilename B	3102701				
温度平衡時間 [分]	10	駆動開線間補	<u>11</u> +500	1	
				白毛匠上	
			PF7	日期原息	復 /市
<pf1=1杀仔> <pf5=開始></pf5=開始></pf1=1杀仔>	<pf6=data< td=""><td>a> <pf7=原点< td=""><td>(復)市M> <pf9=< td=""><td>=JEZY&XE></td><td><pf10=menu></pf10=menu></td></pf9=<></td></pf7=原点<></td></pf6=data<>	a> <pf7=原点< td=""><td>(復)市M> <pf9=< td=""><td>=JEZY&XE></td><td><pf10=menu></pf10=menu></td></pf9=<></td></pf7=原点<>	(復)市M> <pf9=< td=""><td>=JEZY&XE></td><td><pf10=menu></pf10=menu></td></pf9=<>	=JEZY&XE>	<pf10=menu></pf10=menu>

実行

「PF5」を押すと自動測定を開始する。

結果

測定結果を図化して概略吸着平衡時間を出す。 この結果を基に吸着平衡測定を再度実施して正確な吸着平衡時間を検討する。

吸着平衡時間 : 試料分子量から検討した概略吸着平衡時間

解説

吸着平衡時間は表面張力の低下率が大きく変化し始めた時間を選択する。 試料種別略号 A:アニオン性、N:ノニオン、K:カチオン、H:純水 試料特性が不明な場合は A を設定する。

3. 正確な吸着平衡時間設定値の自動計算

操作

「界面張力吸着平衡測定」の測定メニューから「測定定数自動測定」を選択する。

設定

「試料分子量」の概略値をグラム単位で設定する。(ex:300)

「吸着平衡時間」に概略吸着平衡時間で求めた時間を分単位で設定する。(ex:3)

「試料種別」を設定する。(ex:アニオン性及び不明なら[A]、それ以外は[N])

「高速滴下距離」概略値をµ単位で設定する。 (ex:1850)

「低速滴下距離」概略値をµ単位で設定する。 (ex:1750)



実行

「PF3」を押すと自動計算する。

概略吸着平衡時間設定値と概略温度平衡時間が定まる。 「 P F 5 」を押すと自動計算結果を測定定数として設定する。

界面張力吸着平衡測定 KAIMENB Ver5.00 2003/10/26 Copyright by YTS	0
<< 自動測定定数設定 >> 2003-10-27 22:52:2	7
試料分子量[g/mol] 300 吸着平衡時間[min] 3 試料種別 A,N,K,H [
□	
「吸着平衡時間	
0.1 0.1 .5 1 1.5 2 2.5 3 4 5 6	
温度平衡時間[分] 10	
nn,美亚德吐明土现本。、八字自义甘)~ 娜奶测学学新现会	
吸有十側时间不設定 マ 刀丁重て奉に佩哈側足足致設足 吸差率御時間既設字 → 詳細字数測字設字	
1021年(周辺10141622年) FFAILLESSAMLESSAE 試料種別 4:77カ系 N:7カ系 K:カチカ系 H:H2o	
<esc=取消> <pf3=自動計算> <pf5=設定></pf5=設定></pf3=自動計算></esc=取消>	

4. 正確な吸着平衡時間の測定

操作

「界面張力吸着平衡測定」の測定メニューから「自動測定」を選択する。

設定

「測定定数自動測定」で自動計算した結果が反映されている事を確認し、デフォルトの設 定のままで変更する必要は無い。

界面張力吸着平衡測測	言 KAIMENB	Ver5.00 2003	3/10/26	Copyr	ight by YTS O
				2003-10	-27 22:54:52
	~~	測定定数設定			
滴下回数 1	1 シリン	νジ位置 [μm]	+25000		
	粗設定定数	做設定定数	残余除去距离	雒	
速度定数 (0-31)	31	0			
移動距離 [μm]	1350	+3000	1800		
測定番号 /	<粗→微> 吸:	着平衡時間[mir	1]		
1 2 3 4	567	8 9 10	11 12 13	14 15 16	17 18
0.1 0.1 .5 1	1.5 2 2.5	345	6		
滴下間隔時間	[分]	0.05			
記録ドライブ	В				
Datafilename	B3102701		the second s		
温度平衡時間 [分	10	駆動軸隙間補	<u>π[μ]</u> +50	10	
				2 - 2 1	
			PF7	:自動原点	復帰
<pf1=保存> <pf5=開如< td=""><td>恰> <pf6=dar< td=""><td>ta> <pf7=原点< td=""><td>〔復帰M> <pf9< td=""><td>9=定数&メモ></td><td><pf10=menu></pf10=menu></td></pf9<></td></pf7=原点<></td></pf6=dar<></td></pf5=開如<></pf1=保存>	恰> <pf6=dar< td=""><td>ta> <pf7=原点< td=""><td>〔復帰M> <pf9< td=""><td>9=定数&メモ></td><td><pf10=menu></pf10=menu></td></pf9<></td></pf7=原点<></td></pf6=dar<>	ta> <pf7=原点< td=""><td>〔復帰M> <pf9< td=""><td>9=定数&メモ></td><td><pf10=menu></pf10=menu></td></pf9<></td></pf7=原点<>	〔復帰M> <pf9< td=""><td>9=定数&メモ></td><td><pf10=menu></pf10=menu></td></pf9<>	9=定数&メモ>	<pf10=menu></pf10=menu>

実行

「PF5」を押すと自動測定を開始する。

結果

測定結果を図化して概略吸着平衡時間を出す。 この結果を基に吸着平衡測定を再度実施して正確な吸着平衡時間を検討する。 微移動時間も反映する**移動時間を、正確な吸着平衡時間**が検討結果になる。

吸着平衡時間 : 概略吸着平衡時間から検討した正確な吸着平衡時間

測定例

例では低下率変化位置から設定吸着平衡時間1分、移動時間128秒が吸着平衡完了時間と判断できる。正確な吸着平衡時間は約2分と結論する。

吸着平衡	移動距離	表面張力	移動時間
min	μ	mN/m	sec
0.1	1505	39.03	38
0.5	1472	38.25	98
1	1469	38.18	128
1.5	1467	38.13	157
2	1464	38.06	188
3	1457	37.89	248
5	1449	37.70	373



第3項 濃縮平衡距離測定 [kaimenE]

試料特性に対応する測定方式を選択する。濃縮被膜剥離測定法の必要剥離距離を検討する。

1. 粗移動距離設定値の自動計算

操作

「濃縮平衡距離測定」の測定メニューから「測定定数自動測定」を選択する。

設定

「試料分子量」の概略値をグラム単位で設定する。(ex:300) 「高速滴下距離」概略値をµ単位で設定する。 (ex:1800) 「低速滴下距離」概略値をµ単位で設定する。 (ex:1700) 「吸着平衡時間」概略値を分単位で設定する。 (ex:3)

濃縮平衡距離測定 KAIMENE Ver2.00						2003/10/22 Copyright by Y					by YTS O				
	<< 自動測測							[定定]	数設定			200	03-10-	23 23	:46:59
	【試料分子量[g/mol] 300 滴下回数 : 12 ★花丁四寸# 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4														
		िकंटा	IE 或件 r		1000			一派	影谷下に	纪跳 注明了	ι <i>μ</i> ι	1750			
	回辺 (任)津	い同じ	纪68日1. 1516年1	μ1 1	1000			吸信	十浬	에미 니	III III.	1.5			
	EV14	2/18) 1	吧 肉田 い	pc 1	1100										
		1	2	3	4	-5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	μ	1750	1750	1650	1550	1450	1350	1250	1150	1050	950	850	100	3 ,777,	Sara
	UC -	-32	32	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31		
	吸着	平衡	時間	粗→	敗 E	/)]	3								
	阳正	E STZ CALL	1288	751	40										
	温质	[十(即	坊间	[分]]	10										
<es< td=""><td>C=取)</td><td>消> 。</td><td>(PF3=)</td><td>自動言</td><td> 算></td><td><pf5=< td=""><td>設定</td><td>×</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></pf5=<></td></es<>	C=取)	消> 。	(PF3=)	自動言	算>	<pf5=< td=""><td>設定</td><td>×</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></pf5=<>	設定	×							

実行

「PF3」を押すと自動計算する。

粗移動距離設定値と吸着平衡時間が定まる。

「PF5」を押すと自動計算結果を測定定数として設定する。

2. 濃縮皮膜剥離距離の測定

操作

「濃縮平衡距離測定」の測定メニューから「自動測定」を選択する。

設定

「測定定数自動測定」で自動計算した結果が反映されている事を確認し、デフォルトの設 定のままで変更する必要は無い。

濃	縮平	衡距離	測定	KAI	1ENE	Ver	2.00	2003	3/10/2	22		C	Copyr i	ght b	by YTS C
	2003-10-23 23:47:46										3:47:46				
	滴下回数 10 シリンジ位置 [μm] +25000														
	10000000000000000000000000000000000000														
	速度	定数	(Ø-31	1)		31		Ø		Spee	ed Ø r	~ 31	: 5~	100	µ∕s]
	一派	够不下	[μm	1]	+1500	3	+30	300		Spee	ed -N	= 1	[μ/	Nsec	2]
											- 10		12		14
		1800	1800	1700	1600	1500	1400	1300	1200	1100	1000	900	800	700	600
	VC	32	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31
	吸着	平衡	時間	粗→í	敗 じ	分1	3			高速残	影 御除 :	去は吸	着平衡	新時間	無し
	滳下	間隔	時間		[]	分1	0.0	5			Speed	1 = 32			
	- 12	録ドラ	ヨブ	В											
	Dar	tafile	ename	E:	310230	91									
	温度平衡時間 [分] 10														
												自動	源点征	复帰	
KPF	1=保)	存≻→	(PE5=	盟始>	KPE	S=Data	a> <f< td=""><td>PE7=扂</td><td>占復</td><td>帰M></td><td><pe9=< td=""><td>=定数8</td><td><=kJ</td><td><pe10< td=""><td>Menu></td></pe10<></td></pe9=<></td></f<>	PE7=扂	占復	帰M>	<pe9=< td=""><td>=定数8</td><td><=kJ</td><td><pe10< td=""><td>Menu></td></pe10<></td></pe9=<>	=定数8	<=kJ	<pe10< td=""><td>Menu></td></pe10<>	Menu>

実行

「PF5」を押すと自動測定を開始する。

結果

測定結果を図化して濃縮皮膜剥離距離を検討する。

濃縮平衡距離 : 濃縮被膜剥離測定法で利用する粗移動距離

解説

キャピラリ側面で濃縮した試料液の影響を排除するには、数分程度の微移動距離が必要 になる。滴下距離から濃縮皮膜剥離に必要な距離を差し引いたのが濃縮被膜剥離測定法で利 用する粗移動距離設定値になる。

吸着平衡時間は長過ぎても短過ぎても正確な測定は困難だが微移動距離を 300~600 µ 位 に設定すると適当な場合が多い。

測定例

測定例では吸着平衡時間は 2~4分の範囲で粗移動距離に関係なく安定した結果が得られた。吸着平衡時間の長さにより測定結果が大きくなる事から、濃縮被膜剥離測定法による測定を選択する。図から判断した推奨測定方法は温度平衡時間 2分、粗移動距離 1300 µ。



第4項 残余除去連続測定 [kaimenC]

検討した測定方式と測定定数を用いて試料測定を実施する。

3. 測定定数設定値の自動計算

操作

「残余除去連続測定」の測定メニューから「測定定数自動測定」を選択する。

設定

「試料種別」を設定する。(ex:アニオン性及び不明なら[A]、それ以外は[N]) 「高速滴下距離」概略値をµ単位で設定する。 (ex:1850) 「低速滴下距離」概略値をµ単位で設定する。 (ex:1750) 「吸着平衡時間」概略値を分単位で設定する。 (ex:3)



実行

「PF3」を押すと自動計算する。

粗移動距離設定値と吸着平衡時間が定まる。

「PF5」を押すと自動計算結果を測定定数として設定する。

4. 温度平衡時間の測定

操作

「濃縮平衡距離測定」の測定メニューから「自動測定」を選択する。

設定

「測定定数自動測定」で自動計算した結果が反映されている事を確認し、デフォルトの設 定のままで変更する必要は無い。

残余除去測定 KAIMENC Ver2.00 200	3/10/24	Copyright by YTS O
<< 全自動連続測定	モード >>	2003-10-24 21:35:47
測定滴下回数 10 残余液	除去回数 3	残余除去距離 1800
温度平衡 [分] 20 隙間補	<u>፲</u> [μ] +500	Totaldrop = 13
	微設定定数	
速度定数 (0-31) 31	Ø	
移動距離 [µm] 1350	+3000 F	SC = 31 to -60
吸着平衡時間 粗→微 [分]	1.5 🧕	残余皮膜除去回数 0
滴下間隔時間 [分]	0.05	
記録ドライブ B		計算式 : Lando & Oakley
Datafilename C3102401	YYMMDDnm [PF81計算式選択
S = (M-S-Z) *R + S or S = M - R	, 40 > R*1.2	,40 < R+10 , LM > 500
		自動原点復帰
<pf1=保存> <pf5=開始> <pf6=data></pf6=data></pf5=開始></pf1=保存>	<pf7=原点復帰m< td=""><td>1> <pf9=定数&xt> <pf10=menu></pf10=menu></pf9=定数&xt></td></pf7=原点復帰m<>	1> <pf9=定数&xt> <pf10=menu></pf10=menu></pf9=定数&xt>

実行

「PF5」を押すと自動測定を開始する。

結果

測定結果の初期滴下値が2滴目以降より小さい場合は、温度平衡時間を10分程度延長し再 測定する。差が小さい場合は今回の測定条件で正確な測定が可能になる。

考察

操作方法が適切な場合で、一滴目の測定値が2滴目以降よりも小さい場合は、温度平衡時間 不足が考えられる。アニオン性界面活性剤測定での温度平衡時間は、室温と測定温度が同程 度でも20分は必要。純水測定時より遙かに長い時間を必要とする。